

第 9 1 9 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 5 年 1 0 月 3 1 日（火） 1 5 : 0 0 ～

場 所 益田市役所第二会議室

益田市教育委員会

第 9 1 9 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 5 年 1 0 月 3 1 日（火） 1 5 : 0 0 ～

招 集 場 所 益田市役所第二会議室

議事日程

第 1 会議録の承認について

第 2 教育長報告

第 3 議題

報第 2 5 号 令和 5 年度益田市定着度調査結果について

報第 2 6 号 第 5 6 1 回益田市議会定例会一般質問について

報第 2 7 号 令和 5 年度 9 月益田市一般会計補正予算について

第 4 その他

（ 1 ） その他

出席者

教育委員会

教 育 長	高 市 和 則
教 育 委 員	梅 津 富美子
教 育 委 員	大 庭 隆 志
教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯
教 育 委 員	原 田 笑

事務局職員

教 育 部 長	長 嶺 勝 良
教 育 総 務 課 長	志田原 渉
学 校 教 育 課 長	田 原 正 紀
協働のひとづくり推進課長	岡 崎 健 次
文 化 財 課 長	石 田 公
学 校 教 育 課 参 事	杉 原 貴 宏
教 育 総 務 課 長 補 佐	齋 藤 勝 義
教 育 総 務 課 主 事	三 浦 菜々子

高市教育長 ただいまより第919回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況です。

9月28日でございます。こちらは匹見で匹見健康フェスティバル2023実行委員会がございました。これ、後ほどご紹介をいたしますが、10月21日、匹見で行われた健康フェスティバルの委員会でございます。

続きまして、9月30日でございます。また後ほど紹介いたしますが10月15日に実施をされました第16回萩・石見空港マラソン全国大会ですが、毎年600名以上のボランティアの方にご協力をいただいております。そのボランティアスタッフの説明会に出席をしたところでございます。

続きまして、10月1日でございます。益田市立図書館文藝講座がございました。こちらは今回、文藝春秋の編集長等をされておられました高橋一清さんにいろいろとコーディネーターをしていただいている文藝講座でございます。今年は、ラフカディオ・ハーンのひ孫の小泉凡さんが来てお話をいただきました。なかなか小泉八雲はですね、ジャーナリスト出身だったとか何かジャズのことをいろいろまとめた資料を書かれていたとかという、全く知らなかった話等も聞き、非常に楽しくお話を伺ったところでございます。

続きまして、10月8日でございます。こちらは第21回いわみ子どもの絵コンクールの表彰式に出席をまいりました。

続きまして、10月9日でございます。こちらはドリカム講演会、本年度から教育委員会で新しく始めた事業として、益田東高校と連携をして行っている事業です。講演者をお呼びして学ぶ楽しさについてお話を伺うことを目的とした講演会です。今回は鶴崎さん、東大のクイズ王等で有名な方ですけれども、数学が好きだったということで、東大で数学の博士号まで取られて、今クイズに関する活動等をされているというお話を伺いました。

10月10日、都茂小学校、10月12日に高津中学校を訪問してまいりました。

10月13日でございます。こちら、第561回益田市議会定例会が閉会いたしました。定例会における一般質問のやり取りにつきましては、後ほどご報告をさせていただきます。

続きまして、14日でございます。大人のための情報モラル研修会ということで、毎回のことですが、株式会社ラックの吉岡さんに最近の情報の世界、ICTの関係のお話、講演をいただいたところでございます。

先ほどもご紹介しましたが、15日、第16回萩・石見空港マラソン全国大会でありました。今年、空港が開港して30周年という非常に記念の年ということもあり、多くの方が参加をされたところでございます。最近では萩・石見空港以外にも空港の中で走ったりするということがどうも出てきているということですが、まだまだなかなか入りにくいところに実際入って広いところをみんなで走るとのこと、貴重な経験だと思っております。

続きまして、16日、寧波市の選手団の表敬訪問がございました。こちら、実はその前の日に行われました空港マラソンのほうに寧波市から5名の方が選手として来訪されまして、その表敬ということでございます。

続きまして、10月19日、20日でございます。こちらは益田を地域として中国地区の学校図書館研究大会、また島根県の学校図書館研究大会、あと島根県の高等学校の図書研究大会を合わせたものが合同で開催をされたところでございます。19日は市内の小・中学校、高校、養護学校等で図書館を活用した教育実践ということで、幾つかの学校で公開授業等を、またその後に研究協議が行われたところです。ここにつきましては、私は高津中学校を訪問して実践の状況等を見学させていただきました。次の20日に全体の総会等が行われたところでございます。

続きまして、21日、先ほどご紹介いたしました匹見健康フェスティバル2023でございます。こちら、今まで、2年前までは紅葉マラソンという形で行われていたものですが、昨年から形態を変えまして、地域の方々の健康増進のために運動をするという形で健康フェスティバルというものにくら替えをして行ったものでございます。

22日に防災訓練。こちらは中西小学校を会場に防災訓練が行われたところでございます。こちらには、中西中学校の子どもたちがボランティアセンターのボランティア活動という形で参加をしてい

ました。また、中西小学校の子どもたちが防災訓練の状況を見学にきており、地域の子どもたちも防災に意識を持って活動をしている状況を見学したところでございます。

続きまして、23日、豊川小学校を訪問いたしました。

25日でございます。こちら、第12回島根県小中学校養護教諭研究大会に参加をしましてまいりました。こちらは県内の養護教諭の先生方が一堂に会した会でございます。

一応、報告としては以上でございます。

続きまして、ご寄附、ご寄贈のご紹介をさせていただきます。

今回、ご報告するのは2件ございました。

まず1件目でございますけれども、国際ソロプチミスト益田様から小・中学校施設整備基金に対しましてご寄附を頂戴いたしました。ちょうど国際ソロプチミスト益田さんが結成35年の記念の年だということでご寄附をいただいたところでございます。あとは、市内の匿名の方から奨学基金に対しましてご寄附を頂戴いたしました。この場でご紹介をさせていただいて、感謝を申し上げる次第でございます。

私からの報告は以上でございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

第3 議題

○報第25号
高市教育長

令和5年度益田市定着度調査結果について

本日は、3件の報告案件がございます。

まず初めに報第25号 令和5年度益田市定着度調査結果についてから進めさせていただければと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

杉原参事

それでは、令和5年度の益田市定着度調査結果についてご報告をさせていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

今年は5月18日の木曜日に学年で言いましたら小学校の4年生から6年生、中学校1年生から3年生、教科のほうは小学校、国語と算数、中学校、国語、数学、それと質問紙ということで意識調査を行っております。

伸びの状況については、2ページのほうをご覧ください。ただけたらと思います。

それでは、3ページのほうの結果になっておりますので、ご覧く

ださい。

令和4年度から5年度の1年間の学力の伸びの結果ということで各教科の伸びの状況を示しております。益田市としましては期待値を3としておりますが、国語科においてはこの網かけがしてあるところが本年度の結果になっております。伸びのところは、右のところに伸びと書いてあるところが伸びとなっております。平均が国語科は2.4になっております。令和3年、4年と平均が1.4ですので、若干伸びの幅が高くなっておりますが、期待値には至っておりませんでした。小学校5年生と6年生に関しては高く、期待値に達しておりましたが、中学校に関しては伸びが1か2ということで期待値には届いていないという状況でございます。

それから、算数・数学科です。これも期待値は3ということでございますが、今年度は1.6です。昨年度は1.4です。少し伸びが上がったというところではございますが、期待値には至っていないというところではございます。これも網かけのところが今年度のところで、右側に書いてある伸びのところが全部の学年の伸びの状況になっております。算数・数学に関しては、期待値3に達している学年はございませんでした。どの学年も1から2の伸びが示されているというところでございます。

続きまして、4ページです。

各教科の伸びの状況です。これは学力レベルが、先ほどの伸びが4以上伸びた児童・生徒の割合というところでお示しをしております。小学校5年生に関しては、昨年度からスタートということですので、比べる側がありませんが、小学校6年生と中学校3年生までは昨年度と同一集団の伸びと比べて示しております。小学校6年生に関しては、国語科において昨年度よりも伸びが大きく見られておりますが、中学校のほうでは昨年度よりもやや伸びが少ないという状況が見てとれます。それから、算数・数学科においても下のグラフのような状況になっております。これについては、昨年度を上回るというところでは中学校3年生が若干伸びておりますが、それ以外の学年については昨年度の伸びよりやや低くなっているという状況でございます。ただ、この伸びが大きい子が上位層ということではございませんので、そこら辺はご了承ください。

全体的な傾向としましては、この学力調査の性格上、平均点というよりは一人一人の伸びというところを見るものですので、全体的な状況というところはあまり大きくはお示しできませんけれども、全体的に小学校、中学校とも問題のレベルというか、難易度というものが後半になって高くなっていくような傾向の問題になっており

まして、無回答率がそれに従って高くなっているというところが傾向としてうかがえていて、全国学力・学習状況調査でありますとか島根県学力調査などそういった昨年度からの結果と比べても、やはり決められた時間内で全部の問題を解き切るところがなかなか難しい状況があるのかなと分析をしております。それから、国語科に関しては、どの学年も指示をされたものを文章中から抜き出すという問題に少し課題が見られたというところです。

それでは、5ページ以降は益田市教育ビジョン6つの重点目標に沿った質問項目の結果ということになっております。郷土愛、それから不撓不屈、活力、発信力、自立、支え合いというところでそれぞれの数値が示してございます。一番下のところが平均値になっておりまして、これは昨年度と比べてほぼ動きがございません。どの項目も昨年度とほぼ同じような数値で推移をしているということになっております。

定着度調査の報告は以上です。

高市教育長

ありがとうございます。

では、本件につきましてご質問、ご意見等ございましたらお願いをいたします

梅津委員

学力の伸びはほとんど期待値の3に達していませんが、少しでも伸びています。それなりに頑張っておられるのかなと思います。一人一人の伸びに着目するというのが定着度調査の目的なので、よりきめ細やかな個別支援を図っていただくことで期待値に近づけるのではないかと考えています。改めて、個別支援とは具体的にどのような取り組みられるのでしょうか。

杉原参事

この調査に関しては、個人個人に調査の結果の表が返ってまいります。ですので、それを各担任、それから教科担任等が確認をしまして、それぞれの子どもたちのできている部分とできていない部分の把握が可能になっております。できていないところについては、授業で重点的に取り組み、補足的な個別の時間を活用してその力を伸びるように補助的に支援をしていくようなことを各校でされていると聞いております。

梅津委員

ありがとうございます。

大庭委員

それでは、まず2点。

3ページのほうで国語のほうですけども、現小学校6年生は昨年度の伸び位置から今年度の伸びが3に大きくなっていると、学力が高まっているなと思いました。その結果、隣のページを見てみますと、学力レベルが4以上伸びた児童が倍増しています。18%から37%になっていますね。ところが、問題は中学校です。中1、中

2、中3、これについてはやはり期待値を下回っていますし、やっぱり授業についての改善をしていく必要性は大きいかなということを感じて感想として持ちました。それが1点目です。

それから、2点目、学力に関してですけども、今度は算数のほうです。全体的に学力の伸びに課題があるので、授業の指導法について主に再考していく必要があるのかなということを感じました。そこで、4ページのほうを見てみますと、特に算数・数学科のところですけども、グラフのところを見てください。現在の中学1年は昨年度の学力の伸びが3であったのに、今年度は学力の伸びが1であります。結果として、学力レベルの伸びが4以上の割合が40%から20%に半減しておりますね。こういった数値を見ると、今後やっぱり学校の中でPDCAサイクルを活用してこういった実態に踏み込んでいくと思うのですけども、やはり普段の授業の指導の在り方について今一度考える必要があるかなということを感じました。

学力についてはこの2点です。

以上です。

高市教育長
原田委員

ありがとうございます。

ずれていたら申し訳ないのですけれども、この独自の試験というのはいつから始まって、いつまで実施される予定でしょうか。

杉原参事

4年前から実施をしております。いつまでというところについては、まだ今検討中というところでございます。

原田委員

学年ごとにどのくらい伸びているかという伸びのデータは、教育委員会としてどのように活用されているのでしょうか。

杉原参事

各校で分析のほうをお願いしております。各校の弱みとか強みというところを各校から出していただいて、それについて市全体の状況をこの分析も含めて把握をさせていただいて、訪問指導のところで活用させていただこうと考えております。

原田委員

益田市独自のデータで伸びの幅が大きかったところは、全国学力調査でも点数に反映されていたりとリンクする部分はあるのでしょうか。

杉原参事

この益田市の定着度調査は各個人の伸びというところが大きくクローズアップされるテストになっておりますので、全国学力・学習状況調査のように平均点というような形ではなかなか見えにくいのです。ですので、この学力レベルが4以上伸びたお子さんがいても、上位層が伸びたというだけじゃなくて、下位層の子が伸びていたり、逆に下がっているというお子さんもおられたりするので、平均点を加味する調査とは色合いが違います。

原田委員

でも、それぐらい伸びたお子さん、平均的にどの層にいたとして

も4伸びたということは、それは学テの結果にも反映されると私は認識したのですが、そういうわけではないのですか。

杉原参事

全てが全てリンクをしているということではございません。学力の調査の内容とか問題の難易度とかもそれぞれのテストで違っていたり、出題部分がそれぞれ異なっていたりするので、一概に全てがリンクしているというところではありません。

高市教育長

すみません。補足をさせていただきますと、今市ではさっきお話があった全国学力・学習状況調査と今回報告をしております定着度調査、あとは12月に県が行う県の調査、この3つの調査を基本的に益田市で行っています。ただ、それぞれの調査の関係ですね。相関というか、そういう調査、分析までは現在行っておりませんで、なので例えば全国学力調査は6年生と中3が対象で、市は小学校4年生から中3までという形、県は小学校5、6と中1、中2という形で受けている学年がばらついています。もちろんかぶっている学年はあるのですが、それぞれの特定の個人が、例えば全国でどのくらいの正答率だった子が、じゃあ益田市でどれくらいの学力レベルにあるのかとか伸びがどうだったとかというようなところまで併せて調査をしていないので、全国でいい点数の子が、じゃあ今回伸びが長い、高いのかとか、あとは高い学力レベルという形でその結果が出ているのかというところの確認までは行っていないので、何らかの関係性はあるだろうと想定はできるものの、実際に分析して見比べていないので、そこまで明確にあるかどうかというところまでは申し上げられないというのが今の実態でございます。あとは、私が過去のデータでやったところだと、比較的学力レベルが低いと出ている子のほうが伸びやすいというような結果は出ていましたけれども、必ずしもこれ、全員が全員というわけじゃないですが、全体としてそういう動きでした。高い子、本当に一番トップレベルの子は、これ、毎年1学年上がるときに3しか上がらないので、ぶっちぎっている子も3しか絶対上がらないという、トップの子はトップで行っても3しか上がらないというような、テストの設計の問題もあり、どこまで正確に捉えられているのかというのはなかなか難しいところがある調査だなと教育委員会としては感じているところではあります。

原田委員

少なからず学校現場にはプラスアルファで市独自のテストをすることで負担がかかっているのではないかと思います。やっぱりその負担のある分、学力テストとの相関関係ですとか、本当にこの益田市独自のデータじゃないと活用できないのかどうか、学力テスト、県独自の調査だけでも同じように活用できるのではないかと、そ

ういうところをもう少し精査していったって、よりうまくいく活用を進めていくべきだと感じています。

以上です。

杉原参事 これから来年度の予算編成とかも行っていくところでございますので、先ほどの委員さんのご意見等も参考にさせていただきながら今後精査をしていきたいと思っております。

齋藤委員 4 ページの国語と算数・数学、このグラフだけ見ると、中学生の伸び率が低く下がっていているように見えます。これは2年間の対比ですけども、遡って4年前ぐらいからこのグラフを並べてみると、どういふ変化が見られるのでしょうか。2年間だけで対比して下がったというだけじゃなくて、全体的な動きが見えるといいと思います。

杉原参事 今回2年間だけの比較というところで、過去を遡って4年間までは比較をしておりません。また、改めて毎年精査させていただいて分析をさせていただこうと思っています。

齋藤委員 調査項目は変わってないということでしょうか。

杉原参事 そうです。

高市教育長 学力レベルの伸びで4以上伸びている子の全体の割合なので変わっておりません。

齋藤委員 だから、今の中学1年生が3年前にやっていますよね。

高市教育長 そうですね。今、今年中1だと小学校4年生のときからデータがあるので、3回分の伸びが見られます。

齋藤委員 その両年のデータを出して比較してみたらどうなるか関心があります。

杉原参事 レベル4以上の伸びというところはまだできておりませんが、各学年それぞれ4年前の平均の値のレベルのところの数値が3ページにございますので、そこで少し確認ができるかなと思っております。

高市教育長 1つ前のページのこれ、平均ではあるので、人数の割合ということではないのですけれども、例えば伸びが2だったら4という子はそんなに多くないよなというようなところでつかみぐらいは分かるかと思います。また、経年変化につきましては、データの整理の仕方、検討させていただきたいと思います。

大庭委員 益田市教育ビジョンの6つの重点目標のところを、気がついたところを申し上げたいと思います。

まずは、郷土愛のところで見えていたのですが、いわゆる中学3年生がここの学年として一番低く、平均が65とあって、55ということになっています。危惧するのはいわゆる郷土愛というのは自分の生まれたふるさとを愛するそういう気持ちとか、そういっ

た要するに自分が生まれたところはどういうところだというのが分かってこそ初めてその価値を見いだすと思うのですが、中3というのは将来的にやっぱり自分の進路とかいろんなものをある程度方向性を決めていく大事な時だろうと思うのです。その時に自分が生まれたふるさとである益田に対して誇りを持っているか持っていないかという一つのいわゆる指針というものが、やはり自分たちの住んでいるところの歴史とか自然ですね、自然に対する関心とか愛着度、そういったものが非常に将来的に左右すると思うのです。そういった意味で4年生から中3の中で最も大事な学年が中3だと思いますので、理想としてはそこが一番高くなければいけないと思うのですが、実際には一番低いという状態です。これは大きな課題かなと感じております。

それから、それに今関連してなんですけども、不撓不屈のところの2番目の、こちらのほうを見ておりましたが、やはり中2が67、中3が70となっており、ほかの学年に比べれば低い結果となっています。結局、中2とか中3というのは、先ほども言いましたように具体的な進路を考える時期が近づいている、そういう学年だと思うのです。そういった中であるにもかかわらず、これが低いというのは少し自分の将来の夢とか目標、こういったものに対して何かまだはっきりしていないということだと思いますので、考えるべき課題かなとこの資料を見て感想として思いました。

それから、今度は6ページのほう、これは活力のところですけども、これの2番目のほうですけども、これにつきましても中学2年生、中学3年生、やっぱり低いのですけども、先ほどから何度も言いますが、そろそろ進路選択を控えている中で自らの可能性を切り開こうとするそういう向上心、こういったものが、どうなのかなということ、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますかということに対して、肯定的な気持ちが少ないのもやはり大きな課題かなというふうに思っております。

最後になりますけども、7ページ、こちらにつきましては、例えば自立、それから支え合いとありますけども、やはり数値的には非常に高くなっています。これは特に中学生のほう、中1、中2、中3と数字が高くなっていますけども、これはやっぱり普段の生徒指導といいますか、生活指導の結果が反映されている数値ではないかなということを感じております。特に支え合いのほう、この2番目の学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたかというのが高いです。小学校4年から中学3年までのそれぞれの学年で高い意識の割合であるということは好ましいことだなと思います。より一

層数字が高くなるように、小学生もやっぱり90以上の数値が出るように非常に期待しております。

以上です。

杉原参事

ご指摘いただいたふるさと教育に関連するところでは、今益田市のほうでは各中学校区のほうで公民館を中心に保育所から小学校、中学校、中には高校とかも入って生活科と総合的な学習の時間でふるさと教育というところの計画を立てて、いわゆる9年間、もっと長い期間をかけてふるさと教育を進めようと何年か前から引き続きやっているところでございます。そういったところも、これからも継続していきながらふるさとへの郷土愛みたいなところも育てていけたらなと考えております。

以上です。

大庭委員

今のことも関連してなんですけども、新聞等でも時々取り上げられておりますけども、益田東中学校の生徒が観光客相手に萬福寺や医光寺などを案内してガイドをすることを何か学習の一環としてやっているような記事がありました。それは郷土愛という部分で指摘した部分に非常につながってきますので、いろんな学校がそういう形で様々な学習を展開してもらえれば非常にありがたいなと思っています。

以上です。

齋藤委員

今示していただいているのは5年度の総括の関連の関係だったのですよね。これを同じように2、3年前から比較してみると上がっているのか下がっているのか、非常に関心があります。大庭委員の話があったように、そのような取り組みに多く関わっている子どもとそうではない子どもにはアンケートの回答にも違いが出てくるのではないかと思います。そこらのバックグラウンドをつかまないと手が打てないのだろーと思います。貴重な調査をやっているのですのあたりも知りたいと思います。

もう一つ、これは少し評論的な言い方になりますけど、私がしていた調査の経験上、学校の高学年になって少し社会が見えてきて、大人の嫌な面とかいい面も見えてくる年頃です。大人はいろいろ言っているけど、全然私の声を聞いてないとか、いいこと言っているがやってないじゃないかなどこれは思春期の特徴ですが、その結果勉強してもつまらないと考える傾向が全体的にあります。そのような点も含めて、担任だけの問題じゃなくて益田の実態がどうなのかということをもう少し突っ込んで考えてほしいなと思います。それと「郷土愛・ふるさと愛」については減っているのか増えてきているのか、そのあたりも知りたいですね。

高市教育長 データの提示の仕方、恐らく毎年出ている質問じゃないかと思うのですが、この調査は年々で質問が結構質問が変わる部分と変わらない部分というのがあるので、そこを確認しながらデータのお示しの仕方を工夫するように事務局に考えてもらいます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○報第26号 第561回益田市議会定例会一般質問について

高市教育長 続きまして報第26号第561回益田市議会定例会一般質問についてです。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

長嶺教育部長 このたび8月に市議会議員選挙がございました。新たに改選になられた皆さん方が9月議会に集まりました。教育情勢について、全体で8名の方が質問をされております。答弁の内容も含めて紹介をさせていただきます。非常に多いので、かいつまんで説明させていただきます。

まず、1番目に佐々木恵二議員さんです。

市政運営についてというところで、この間、市長が肝煎りで取り組んできた益田市型の中高一貫教育、こういった部分での現状、そしてその課題というものも示してほしいというところであります。

市長のほうからの答弁でありました。この益田市型中高一貫教育は全体で3つの構成からできているというところです。1つ目が、算数・数学パワーアップ教室や松江高専における工作教室、こういった理系に関わるようなことの取り組みです。2つ目が、市内小・中学生に自身の卒業後の進路を考えさせることを目的とした市内4高校魅力化推進の取り組みです。そして、3つ目に本年度から始めております学力面において中等教育を充実させようという視点で高等学校卒業後の選択肢を広げていくことを目的として、その基礎となる小・中学校の学生の学力育成ということで市内の高等学校と連携した中高連携学力育成事業という取り組みもしています。ということを前段で紹介を改めてさせていただきました。

特に算数・数学パワーアップ教室の紹介です。これは3年目になりますので、あえて紹介をさせていただいたというところです。回を重ねるごとに保護者間の口コミで参加者が増えているという現状があります。今年の夏は、児童・生徒は109人に及んだということを紹介しています。また、益田東高校に委託して実施しています事業については、延べ86人の小・中学生が参加をしています。当

初の予定人数というのを上回っているのです、学校としても教室を変えなきゃ収まらないという嬉しい悲鳴もありまして、予定していた教室も変更して取り組んだというような状況になります。今後は、参加している児童・生徒や保護者の意見を聞きながら次年度以降について取り組みを充実させていきますということにしております。

2つ目です。こうした取り組みについて子どもたちや保護者はどんなふうに思っているのかというところです。

まず、この算数・数学パワーアップ教室については、保護者から、お父さん、お母さんから行ってきなさいというような意見が非常に多かったと聞いています。また、保護者間の口コミも多かったということで、少しずつ保護者の間でも広がっていることが感じられます。それから、児童・生徒は友達同士で誘い合って来るというようなこともあり、それが複数回になってくると徐々に勉強することの楽しさを感じているという生徒が増えているということを答えております。

続きまして、中高一貫教育全体像の周知を図るべきだという部分がございました。なかなか市民の皆さんには一体それはどんなものなのかということが浸透していないということで、もっと具体的に紹介したらいいということで、市の広報を通じておっしゃるように紹介したいと答えております。

ここで質問1つ抜けておりましたが、話は変わるのですが、学校給食の無償化を進めたらどうかという議員のご質問もありました。全く同じ質問がこの後出てきますが、そのときにまた紹介させていただきます。

次、続いて河野利文議員さんです。

コミュニティ・スクールの今後の展開をどう考えていますかという質問、これの指定の現在の状況と今後の展開をどうしますかというところです。

コミュニティ・スクールの導入を進めており、現在7校を認定しています。この認定した学校については、社会教育コーディネーターを配置するとともに、土台となる学校運営協議会の円滑な運営を支援しています。未導入校については、総合振興計画に基づいてコミュニティ・スクールの導入を促していきたいと答えております。

このコミュニティ・スクールの推進に当たって、各地区公民館にあります「つろうて子育て協議会」という組織になりますが、こうした活動の状況というのが一つの鍵になるのだろうと考えています。こうした状況を、協議会の状況と課題を抱えている地域、具体的な関わりについてどのように考えていますかというところであります。

た。

この「つろうて子育て協議会」は、現在学校区または中学校区をターゲットにして13の団体で組織されて、市内全域が網羅されているという状況です。この協議会が中心となって取り組んだ活動というのが、市内全域で1,561回、参加した子どもたちは1万5,025人で、人数、回数は年々増えてきているという状況にあります。そういった状況にあるのですが、今団体によっていろいろな違いがあると伺っています。公民館の企画力、コーディネート力、協議会を構成メンバーのリーダーシップ、活動づくりの考え方、そういったものに差がいろいろ見られますというところを申し上げております。今後は、こうしたメンバーの皆さんにも毎年3月に行っていますひとが育つまち益田フォーラム、こうしたところへの参加の呼びかけやほかの地域がどんな取り組みをしているのかということや学ぶような機会を提供していきたいと答えております。

次の質問では、社会教育コーディネーター、コミュニティ・スクールが設置された教員を配置しているわけですが、このコーディネーターの人材確保をどのように考えているかという部分です。

社会教育コーディネーターですが、令和5年現在、益田市では5校に配置をしているという状況です。社会教育活動をテーマにした県外で開催されるフォーラムや研修会に参加して、益田市の取り組みの状況、活動紹介というのを行っています。それから、益田市に実習で訪れた大学生にコーディネーターが在籍する小学校、その公民館を実習先として案内して様々な活動を紹介している状況です。あとは、今年は福岡で中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会というところで、益田市として4名の方が事例発表なども行っています。それから、5大学15名の学生を実習で受け入れており、そうしたところで知り合った方々とオンラインでの交流なども行っているというところで、こうしたことの活動を通じて現在のところでは、人数はここでは書いていませんが、3名ぐらいの方が益田で頑張ってみたいなという興味を抱いていただいているという状況です。そういったことも紹介をさせていただいたというところでございます。

続きまして、大久保五郎議員です。

大久保五郎議員は次のページを見てください。

ふるさと教育の重要性と、先ほども意見がありましたが、こういったものをどう考えておられますかというところです。

最後の3行のところにあります、地域の大人との対話を通して多様な価値観に触れることで、愛着を深め、地域の方々との活動の実

践を通してふるさとに貢献したいと思える子どもたちを育ていきたいと教育長が答弁しているという状況です。

続きまして、中須東原遺跡のほうの整備基本計画について問いますというところです。事業計画、進捗状況はどうなっていますかという部分です。

この計画、遺跡は平成26年度に整備基本計画を策定し、段階的に調査、整備、活用するというようにしております。まず、土地の公有化ということを第1期事業として平成28年には終了いたしました。その後ではあるのですが、調査等は行ってきたという状況で、平成30年度、今後の文化財保護行政に必須要件とされました歴史文化基本構想、それから文化財保存活用地域計画というものを策定しなさいということが義務づけられました。この支援計画全体が、今現在は事業計画を延ばしている状況だということです。

今後の取り組みについてというところです。

先ほどにも関連するのですが、これまで史跡益田氏城館跡整備基本計画ということも策定をしてきております。こういったものを踏まえて、中須東原遺跡の基本計画も見直しを行っていきたいと考えております。策定した当時の益田市の財政状況等も含めて、今現在どうあるべきなのかというようなこともしっかりこれから考えていく必要があると思っております。壮大な整備計画をより身近な現実的なものにしていきたいという考え方で見直しをしていきたいと述べております。ただ、土地は全て益田市の公用地となっておりますので、それまで何もしないということではなく、この広大な土地を積極的に活用していきたいと思っております。今年度は、この中須東原遺跡のところでにぎわい創出のためのいろんな取り組みもしていきたいということで地元関係者と協議を行っているというところです。

続きまして、平原祐一議員です。

子ども基本計画という部分、こども家庭庁ができて、これからいろんな子どもの意見を聞いていくというような施策の展開になっています。そういう中で学校において児童・生徒が参画する状況というのはどういうものがあるというところです。

お答えしたのは、児童会活動、生徒会活動、こうしたところで児童・生徒が主体的にいろんな意見を申し上げながら取り組んでいるという状況にあるということを紹介させていただいたというところです。

続きまして、安達美津子議員です。

先ほど佐々木議員のところで給食費の無償化という部分のお話が

ありましたが、同じ質問です。

益田市において無償化にする場合、2億円の一般財源が必要になってくるということも考えると、一般財源で継続的に提供するというのは難しく、代わりに何をやめようかということを検討するということにもつながりますので、無償化という判断には至っていないという状況です。

それから2番目、文科省が公表した学校給食費における公会計化という、給食費を取って先生方がお世話をするということではなくて、公会計として、益田市の会計として処理すべきだという部分ですが、益田市はどう考えていますかというところです。

現在、国で子育て・教育無償化という問題が議論されています。無償化になるとこの公会計というのは必要ないわけですから、その方向性を見ながら今後国の動向を注視し、適切に対応していきたいと回答しているということです。

続きまして、大賀満成議員です。

2030年に行われます第84回国民スポーツ大会、昔で言う国体ですね、それと第29回全国障害者スポーツ大会、この状況についてという部分です。市内開催は4競技、益田市はどのような準備の状況かというところです。

現在は、4種目、オープンウォータースイミング、これは川や海で泳ぐ水泳ですね。サッカー、自転車、軟式野球の4競技の会場となることが決定しています。それから、それに伴う様々な準備ですが、令和6年7月、来年の7月以降にそれぞれ実施予定の中央競技団体による正規の視察を受けて、島根県とそれぞれの各競技団体と協議を進めていくという段取りになっているという状況です。

続きまして、各競技団体や島根県とはどのような連携が取られていますかというところです。

まだまだ先の話ということであるので具体的にという部分ではないですが、本年6月島根県から国スポ、全スポに関して県、市町村、競技団体、それぞれの業務分担が示されたという状況です。それに併せていろいろな競技団体と打合せを始めたところという状況です。

続きまして、競技力の向上と選手及び指導者の育成ということについて、益田市において選手強化の方針をどのように考えていますかという部分です。

これにつきましては、島根県が主体となって令和3年2月3日、島根県競技力向上対策本部というものを設立しております。その下で島根県競技力向上基本計画というものを策定しています。島根県と県体育協会の下、各競技団体をはじめとしていろんな競技力向上

に取り組んでいくという部分です。一義的には県と県体育協会及び各競技団体が主体的に取り組むものと考えています。ただ、こうした計画に基づいて益田市においても、益田市スポーツ協会、それから各競技団体と協力しながら一緒になって対応していきたいという状況であります。具体的にはまだまだこれからという状況であるかと思っています。

競技力の向上、もう一つの質問として指導者の育成というのをどう考えますか。県外から指導者の招聘というのをどのように考えていますかという部分です。

この部分につきましても、競技力の向上自体、島根県が主体となってやっているという認識でいますので、島根県で今現在どういったことを考えているのかというところを紹介させていただきました。島根県では、国スポ、全スポに向けた競技力向上と、大会後、島根県のスポーツ振興に貢献していただく人材をU I ターンで確保するため、全国で活躍する選手や指導者に対し、県内企業への就職支援を行う無料職業紹介所を設置しています。現在ウェブサイトによると、現時点で62社が選手、指導者の受入の協力登録企業として登録をされていると書かれています。当然、益田市の企業も入っておりますので、益田市としてもこうした取り組みに協力していきたいということです。

続いて、③です。地元選手の活躍というのが大会の盛り上がり大きく寄与するが、市内開催の4競技の競技力向上、地元で開催する4競技についてはどのように考えていますかというところです。

同じ答えにはなるのですが、一義的には県と県体育協会、各競技団体が取り組むという状況です。ただし、益田市の場合、自転車によるまちづくりというものを掲げております。そういった中でロードレースが益田市で開催される競技としてあるという状態の中です。市内に競技団体が存在しないという状況ですので、令和5年度から新しい事業としてサイクルスポーツ振興事業というものに取り組んでいます。事業を益田市スポーツ協会に委託をして、指導を担う体制の核となる人材として現役の自転車競技選手にアドバイザーとしての役割を応諾いただいたという報告を受けたという状況であります。こうした方々を中心に中高生世代をターゲットとし、競技者の育成を図っていきたいと考えています。

最後の項目ですね、大会後のレガシーについてです。この国スポ、全スポを開いた後、この考え方、こうしたものをどのように継承していくのですかというところです。

大会開催後においても、全ての市民が開催してよかったと思える

ような大会にしていく必要があると考えています。こうした考え方を引き継いでいくためには、行政、競技団体での盛り上がりは当然として、ただ大会を支えていただく市民運動としていろいろ盛り上げる場面というのが必要と考えているところです。昭和57年には第37回国民体育大会、この頃は国体ですね、くにびき国体ということで、島根県で大会がありました。その当時もボランティアの参加やおもてなしの実施、それから県民運動の盛り上がりがありました。スポーツ競技力の向上というものが当時成果として上げられてきて、定着をしているところもあると思います。こういった部分を含めて、島根県とも今後協議をしながら対応を考えていきたいと思っています。

次に、自転車活用推進計画を推進していることから、子どもたちが積極的に自転車に関わるきっかけをつくる必要があると、このことに対してどう思うかという部分ですが、各年代に応じて自転車に関わる機会をつくるという、創出する機会があると認識していますとお答えをしております。回答としては、先ほどお答えしたような形でスポーツ協会と連携を取ってという形です。

あわせて、こうしたスポーツを通した地域活性化を目的とした計画を改めてつくる必要があると思うが、どうかという部分ですが、改めてこうした計画ということではなくて、現在第6次益田市総合振興計画で生涯スポーツの社会の実現というものを掲げておるということ、こうしたことからしっかり取り組んでいきたいとお答えしているという状況です。

続きまして、齋藤勝廣議員さんです。

1つ目として、小学校、中学校の特別教室へのエアコン設置状況がどうなっていますかという部分です。

令和4年度から2年にわたって小・中学校の特別教室2部屋にエアコンをつけていこうということで進めています。令和4年度は、学校内で使っていないエアコン、こうしたものを移設することに取り組んできました。令和5年度は、新たに空調を設置するというところで実施設計が完了したという状況になっているところです。とお答えをしております。

続いて、学校の水泳の授業に係るプールです。水泳授業の位置づけに対する考え方及びプール施設を使用せず、民間事業者の施設を活用しているという理由をお聞きしたいというところです。

益田市では、プール施設の老朽化に伴って大規模改修に多額の経費を要することから、大規模な改修は行わないという方針です。学習指導要領の中で規定されている内容は全てやらなければな

らないのですが、こと水泳につきましては適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれらを取り扱わないことができるとなっています。ですが、教育委員会としては最低限の指導を行っていきたいという考え方から、適切な水泳場の確保ができない学校については民間の事業者の施設、それから近隣の学校の活用可能なプールというものを活用して対応しているというお答えをしているところです。

それから、自転車の競技です。自転車、サイクルスポーツ振興事業における競技者育成ですが、先ほどと同じような回答になっているので割愛をさせていただきます。

中島守議員さんからのご質問です。

高津柿本人麻呂神社の宝物殿の中に認定重要美術品というものがあります。これは一体どういうものなのかということをお聞きしたいということでございました。

この認定重要美術品というのは、昭和8年公布施行の法律によって認定された美術品です。柿本神社の中には御法楽御短冊ということで歴代の天皇が短歌をしたためのものが納められているという部分で、これが昭和18年10月1日に認定重要美術品として認定されたということです。その後、昭和25年、文化財保護法が成立しました。これに伴ってこの法律は廃止されたのですが、文化財保護法の附則において、当分の間、その効力を有するというので、当分の間が今までずっときておりますので、重要美術品とはそういったもので認識していると紹介をさせていただいたところです。

続きまして、話は変わって学校給食費の徴収、管理の在り方についてご質問をしたいということです。給食費徴収業務の現状についてお聞きしたいということです。

給食費の徴収は、各学校で年間の計画に基づいてPTA会費や教材費と一緒に保護者の指定口座から自動的に引き落とすようにしているというお答えです。

校長名義の口座で行っているのですかということですが、学校名の口座を持っておりまして保護者の口座から給食費を落としています。

引き落としができなかったらどうされるのですかということなので、各学校において金融機関に再引き落としの依頼をし、それでも落とされない場合は学校から保護者に連絡をして納付をお願いしているという状況です。

未納状況というのはどうなっていますかという部分ですが、令和4年度、過去の部分は滞納という言い方をしますが、令和4年度末滞納状況としては2世帯、小学校では2件、金額は10万5,98

4 円、中学校では 1 件、金額は 5 万 7, 2 8 0 円となっています。こうした方々への対応としては、学校と益田市学校給食会が協力して電話による事情聴取や通知書の送付、必要に応じて面談を行って納付を促しているという状況です。

給食費の無償化ということはどう考えますかと。特に無償化ということをするれば、徴収業務が発生しないのであるから教職員の負担軽減につながると思うが、どうかという部分ですが、徴収業務がないとなった場合は教職員の負担軽減、お金を集めるということの負担軽減にはつながると考えていますと答えています。

市が徴収、管理をする、市の会計として位置づける公会計化についてどう考えますかという質問です。8 市の中でやっている自治体はどこかということですが、雲南、出雲、安来、これが公会計を実施しています。

給食費は、文科省の中央教育審議会により給食費は自治体による徴収を基本とすべきとされているが、益田市はどう考えますかということですが、先ほども言いましたが、給食費の無償化というものが現在国において議論されています。こうした国の動向を注視し、適切に対応していきたいというお答えをしているという状況です。

以上、簡単ですが、8 名の方のご質問の回答でした。

齋藤委員 2030 年の国民スポーツ大会にテニスが選ばれなかった何か理由はあるのですか。

長嶺教育部長 テニスは硬式テニスですか。

齋藤委員 益田市には立派なテニス場があるじゃないですか。あそこ使わないのかなと気になりました。

長嶺教育部長 県にもっと立派なテニス場があるかも知れませんが、何が当たってくるかというのは島根県のほうで議論されて、益田市さん、これを受けていただけますかという形で来るので、テニスがなぜ益田に来なかったかとか、理由ははっきりとお聞きをしてないです。

齋藤委員 この 4 種目で決まったということですね。

長嶺教育部長 はい。

齋藤委員 テニスが入ってくるというのはないですね。

長嶺教育部長 来年中央の団体さんが来て益田でぜひやりなさいみたいな話やほかの市町村ではとっても開催できそうにないので、益田でやりなさいみたいな話があるのかも分かりませんが、ほとんどもう変わらないと思います。

齋藤委員 観客数が入らないのかもしれないですね。益田にはあれだけ立派なテニス場があるのでなぜやらないのかなと気になりました。

長嶺教育部長 益田は確かに観客が入りきらないですね。

齋藤委員 少し狭いなという感じはするのですが、益田市でテニス競技をやらないというその理由が知りたいです。

長嶺教育部長 そこまでは分からないですね。野球とサッカーも複数の市町村で開催しています。益田だけで野球をやるわけじゃなくて、いろんなところを回ります。サッカーについては、メイン会場は益田ですが、野球はメイン会場がほかのところという形になっています。浜田だったと思います。

岡崎課長 そうですね、4つありますね。益田と川本と雲南です。テニスは松江と安来ですね。

齋藤委員 分かりました。

高市教育長 ほかいかがでしょうか。

梅津委員 先ほどプールの話がありましたけども、今使用できなくなった学校プール施設が放置したままになっていると思うのですが、今後プール施設を利活用する、利活用についてどうなのかなとお尋ねします。

志田原課長 プールについては、修繕するのにかなりの経費がかかるということがありまして、一応益田市の教育委員会においてはプールの修繕はしないで民間の施設を利用するという話でしています。ただ、使えなくなったプールをどうするかという話ですが、ただこれを解体するにあたって億単位というような金になるというところもありまして、なかなかそこまで優先順位が低いところでございます。

梅津委員 分かりました。

大庭委員 中島守議員さんからの質問の中でいわゆる認定重要美術品ということで昭和8年の重要美術品等の保存に関する法律で認定されている美術品がかなりあると伺っています。これは今の文化財保護法で言いますと重要文化財ぐらいに当たるのでしょうか。

石田課長 これは先ほど言いましたように法律がちょっと変わっておりまして、ですから要は認定ということになっております。ですから、認定としか言えないのです。

大庭委員 要するに、もし仮に言うとしたらやっぱり重要文化財ぐらいに当たるものなのでしょうか。

石田課長 位置づけが全く違うのです。

大庭委員 位置づけが違いますか。それに変えるのはできない。

高市教育長 一応先ほど説明があったときの補足としては、重要美術品という形では位置づけ自体は残っているのですけども、だからといって重要文化財に変わるとかというものではないということです。

大庭委員 なるほど、分かりました。

 それから、すみません、この中身のことじゃないですけども、こ

の出された資料につきまして2点ほどちょっと気がつきましたので。

益田市の事業についての取り組みに対しての質問ですから、「取り組む」とか「取り組み」とかという言葉がしょっちゅう出てきます。それで、これ見ていますとこの中で「取組」という場合に漢字の2文字だけの「取組」もありますし、「取組み」で平仮名のみをつけている「取組み」もあります。それから、り、み、つまり「取り組み」、3種類が混在していますので、今後ですけれども、やはり市として表記の統一をしていただけると非常に何かありがたいというのが1点です。

それから2点目。例えば先ほどの何か同じ資料が2度載っているというところがありましたよね。議員さんでいいますと大賀満成議員さんでしょうか。あれのところで2つほど同じ資料がダブって載っていますので、その中で例えば市における選手強化の方針と考え方について問うとか、それからその下の競技力向上のためには指導者の育成が必要となるが、併せて県外からの指導者の招聘についてその考えを問うというのがありますけれども、例えばここ見たときに上の部分の最初の質問についての回答ですけれども、最後の「市としましては」とありますよね。これはやはりいわゆる要約文ですから、「市としては」というような言い方がいいと思うのですね。同じように下のほうの枠、最後の行、今後、「市といたしましても」とありますけれども、これも「市としても」とかそういう形に変えたほうがいいのではないかなと思っています。というのは、次のページのこれは地元選手の活躍は大会の盛り上がりが大きく寄与する考えるが、特に市内開催の4競技における競技力向上の取り組みについて問うという部分の回答ですけれども、この回答の枠の中の3行目ですけれども、「先ほども申しましたとおり」とありますけれども、これも「先ほども申したとおり」というふうに、変えたほうがいいのではないかなと思います。さらに、次にページの②番、市では自転車活動推進計画を推進していることから云々という質問がありますね。あの回答欄、5行にわたって書いていますけれども、この1行目、「ご指摘のありました」自転車競技についてじゃなしに、これも「ご指摘のあった」という形に変えるべきだと思います。その次、「市といたしましても」とありますけれども、やっぱり「市としても」というふうな回答のほうがいいのではないかと思います。ほかの回答のところはあまりなかったのですが、ここら辺部分で丁寧語を使っていますので、要するにこれは回答の要約ですから文末の表現もいわゆる常体で表現しますので、そういったところもできれば精査していただいて、今後の資料作成のときの注意点としてぜひお願い

できたらなと思います。

以上です。

長嶺部長

実はこれ読み原稿をそのまま貼り付けておまして、文末のところだけ言い切りのような形のものになっています。本当の読み原稿というのは議事録を読んでいただいたほうがもうちょっと丁寧に私も答えております。そういった全体の中でのバランスと、「市としましても」とか「市といたしましても」など教育委員会だけじゃなく益田市全体をどうしているかというところで多分益田市全体が関係している問題でもありますので、できるだけ気をつけて調整をしていきたいと思います。また、ご指摘がいろいろありましたら聞かせていただきたいと思います。

大庭委員

ほかの回答欄のところの例えば「市としましても」じゃなくて「市としても」というような形の表現というところがあたりしきるので、できれば統一いただけると非常にちぐはぐにならなくてよいかなと思いますので、すみませんが、また検討をお願いします。

高市教育長

ありがとうございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

○報第27号

令和5年度9月益田市一般会計補正予算について

高市教育長

続きまして報第27号令和5年度9月益田市一般会計補正予算についてです。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

志田原課長

補正予算につきましては、これまで概要書をつけておりました。その際に今回から一覧表というのをつけておりますので、この一覧表で説明をさせていただきたいと思います。

まず、項番の86番です。教育委員会事務局事務費につきましては、正規の職員が育児休暇等で2名のフルタイム会計年度任用職員に係る経費の増額と雇用保険料の増額というところで380万2,000円という補正をしております。

87番、学校教具・遊具更新事業費につきましては、財源振替というところで地方創生応援税制寄附金を一般財源の代わりに充当しておりますので、補正額は0円ですが、財源充当というところで補正を上げております。

88番、学校施設管理経費でございます。こちらは、匹見小学校の保健室の空調が壊れましたので、ほかの使っていない空調を活用して修繕したというものです。

93番の学校施設管理経費、これは中学校になるのですが、益田東中学校の理科室のエアコンが不調というところで、こちらも使っていないエアコンを移設して対応したものでございます。

110番、高津学校給食センターの管理運営経費でございます。こちらの高津学校給食センターの空調機器、屋外にある室外機ですが、こちらが大型のもので、数でいいますと21基あるのですが、そのうち7基が塩害によりいつ壊れるか分からないという状況でございましたので、早期に対応したということで大きい金額になっております。

田原課長

学校教育課です。

84番からですけども、補正額0円になっている部分については財源の振替で、事業計画に変更があったものではございませんので、割愛させていただきます。

90番のスクール・サポート・スタッフにつきましては、これ小学校費でございまして、教員の欠員に伴いまして市が校務支援を配置するものでございます。当初予算で見込んでいたものよりも大幅に欠員が生じたので、今回補正をしております。それから、スクール・サポート・スタッフについては、当初は一時金が対象外だったのですが、それも途中から県も一時金についても補助金の対象にするということでございましたので、それも併せて補正をしているところでございます。

それから、91番、それから95番の情報教育特別対策費ですけども、これ小学校費、中学校費の分ですが、タブレットの端末に係る修繕費用です。当初見込んでいたよりも大幅に故障、それから破損が発生しましたので、増額の補正をしたところでございます。

簡単ですが、以上です。

岡崎課長

協働のひとづくり推進課です。

97番からになりますが、主だったところだけお伝えします。

103番の社会教育施設整備事業については、豊川公民館、豊川地区の拠点整備事業を今同じところを行っておりますが、新たに測量業務が追加となるということで855万1,000円の増額をしております。

続いて104番、ふれあいホールみと維持管理経費については、電気料の増額の対応と空調設備が大規模のもので、その改修に係る工事ということで3,242万1,000円の増額をしております。

飛びまして109番、体育施設管理経費というところでございますが、主には市民体育館の備品の購入、卓球台の整備をこのたび2

0台ほど整備するということで514万円の増額をしております。

その他についてはお読み取りいただきたいと思います。

以上です。

石田課長

文化財課です。

一つしかありませんので、1つ説明します。

文化財保存管理事業費です。これは七尾城跡、史跡益田氏城館跡（七尾城跡）の見学者等の安全確保の観点で危険木等の伐採を行うということでの増額補正でございます。

以上です。

高市教育長

ありがとうございました。

では、本件につきましてご質問、コメント等ありましたらお願いいたします。

原田委員

110番の高津学校給食センターの管理運営経費について塩害ということだったのですが、今回塩害対策も施されているのでしょうか。

志田原課長

塩害対策を施した製品を導入しております。

高市教育長

最初のやつも塩害対策の製品を入れていたけど、悪くなってしまったのですよね。

志田原課長

先ほど言ったように全ての機械が塩害の被害があったというわけではなく、直接海から風が来る場所、直接風が当たるところが結構塩害で被害が大きくなったということです。

大庭委員

何年ぐらいもちましたか。

志田原課長

7年ぐらいですかね。

齋藤委員

学校教育課の80番の事業に関連してですが、教員の欠員はどの程度あるのですか。

田原課長

小学校費は当初4人で見ていたのですが、結果として16人、10校で出ています。

齋藤委員

小学校ですね。

田原課長

はい、小学校です。中学校は4人で見ていましたけども、1人でしたので、補正はしてないです。

齋藤委員

補填するのは難しいのですね。

田原課長

補填って教員の補充ですか。

齋藤委員

はい。

田原課長

欠員に対して緊急の非常勤講師が充てられているところもありますけども、それすら充てられていない学校もあります。

齋藤委員

10校といえば各学校で1人というわけではないですか。

田原課長

複数いる学校もあります。

齋藤委員

ベテラン勢の負担が非常に高まってきますよね。

田原課長
高市教育長

そうですね、どうしても。
ほかいかがでしょうか。

これ、欠員については基本的には人事に関する事ですので、島根県教育委員会がやるべき部分ではあり、県教委もできる範囲で最大限よくいろいろと手を尽くしてやっただいているところですが、なかなかお願いできる方が市内にほとんどいないため、どうしても必要人数が全てそろえられないというのがずっと続いている状況です。ここ最近県ともいろいろ意見交換はしているのですが、どうもこの状況というのは来年になってから劇的に改善される見込みもないという話も県からは聞いているところですので、しばらくこういう厳しい状況というのは続いていくものと教育委員会としても今考えているところです。

齋藤委員

先ほど七尾城址の樹木伐採の説明がありましたが。城址のところへ道がうまく通っているのですか。

石田課長

はい、歩いて行けます。住吉のところから階段を上っていく、そういうラインになります。

齋藤委員

住吉神社のところから入っていくのですね。

石田課長

そうです。そこでだんだん危ない木が立ち並んでいる状況でしたので、対応いたしました。

齋藤委員

子どもの頃は強い傾斜があって道なき道という感じでしたが、今は歩いていけるのですね。

石田課長

なるべく綺麗に保っていきたいと思っています。

齋藤委員

是非していただきたいですね。

高市教育長

ありがとうございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

高市教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

次回は11月24日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 16時30分＝